



目錄

諸
藏
述
來

法
何
來

風
月
法
來

全
一
天



天
滿
宮



嘉永三庚戌冬新版

寺子
日用

寺子書状極

全

浪華書房

松榮堂梓

日本能書畫影

攝逸勢

尚之中太夫入殿の子あり
其名高し差山天皇
宮中の額をとりてせ
りふり

差山天皇
天皇
相民帝孫二の皇子と
經傳をとりしなり



多龍帝孫制しあふ弘仁中
者門の額を書改むり
北門も沙震筆なり

空海

讃州佐伯

直氏の子なり

サ業しを出家し

入唐して高麗宗と

弘文らり勅しりて

在天門の額を書けりなり



永字八法

側

啄

永

勒

策

努

磔

掠

趯

此八法ハ蔡邕
七傳ノ多野
一七十二法七十
二の點畫此中
このりことふか

今川制河車

今川子俊兵衛兵部仲秋

判河車

一不知文道る武乃終石

得務利の

一 西郷守道 さいこうしゅだう 老 らう 三 さん 乐 らく 母 ぼ 道 だう

殺生事 ころしやうじ

一 小遣 せうけん 一 いち 榮 えい 木 もく 逆 さか 孔 こう 明 めい 令 れい

新 あらた 元 もと 康 やす 事 こと

一 大料 たいりょう 一 いち 米 まい 湯 ゆ 具 ぐ 負 お 負 お 一 いち

法 はふ 法 はふ 致 ち 家 か 言 ごん 見 けん 事 じ

一 貪 くわん 氏 し 令 れい 及 及び 灼 しやく 神 しん 社 しゃ 極 ごく 業 ごう

卷 くわん 之 の

一 先 せん 祖 そ 一 いち 山 さん 庄 しやう 古 こ 塔 たつ 之 の 不 ふ

破 やぶ 壞 くわい 庄 しやう 古 こ 塔 たつ 之 の 不 ふ

一君父重身くんのちからを重んずる之志却後その志を却る大

孝うやまつの

一雖公勢重たとひこうのちからが重んずる私用不忠その私に用ひては忠を盡さず天

乃働すなはちたづなむの

一不各居下各自の所に居る音德心その音徳を心に以もつて

飛とぶの

一我如知我が如く知る下働下の働又また

為なす同前同前の事事

一企企て之乱その乱支支说説以他人他人を以て甚甚

樂たのしみ乃すなはちの

一不知^ず分^{ぶん}限^{げん}或^{ある}過^か也^{なり}

或^{ある}不^ふ足^{そく}也^{なり}

一失^{しつ}他人^{たにん}理^り致^ち濫^{らん}聖^{せい}慕^ぼ

推^{けん}威^{あゐ}也^{なり}

一媿^き賢^{けん}於^に志^し傷^{やう}人^{にん}致^ち恥^ち

分^{ぶん}法^{ぽう}也^{なり}

一非^ひ道^{どう}而^{して}妄^{まが}不^ふ正^{せい}心^{しん}也^{なり}

而^{して}妄^{まが}不^ふ正^{せい}也^{なり}

一長^{ちやう}酒^{しゆ}妻^{さい}淫^{いん}淫^{いん}其^の情^{じやう}有^あ志^し

家^か穢^{たい}也^{なり}

一運已利根乾万端嘲ちゆうひのちがやとつらんまきとらんくんとあざかる

他人事たにんじ

一人来則攝虐病不能ひとあひまるとしやくびやうとせむあらん

對面たいめん

一每獨味不能能人まごころとあひまごころんといひまごころ

強活きやく

一出家沙門を執及等の業可いっしけりやもんめしやくとせんごころ

心礼しんらい

一衣乞之衣裳已了台而いぶぐいあれちがうんごしを

片下見若せんりまごころ

一貴^き結^{むす}不^ず每^{ごと}周^{しゅう}采^{さい}乃^{なり}理^り

恒^{つね}安^{やす}乐^{らく}る^る

一^{いつ}於^お分^{ぶん}國^{こく}之^の諸^{しよ}國^{こく}之^の類^{るい}

性^{せい}是^は旅^{りょ}人^{にん}の^の

右^{みぎ}計^{けい}奈^なく^く乃^{なり}可^か法^{はふ}公^{こう}舞^ぶ

弓^{きう}馬^ま合^あ氣^き執^{しやく}嗜^{しやく}事^じ志^し民^{みん}士^し

道^{みち}之^の殊^{しよ}專^{せん}之^の彼^か彼^か以^いる^る

中^{ちゆう}也^や也^や先^{せん}人^{にん}可^か也^や也^や國^{こく}中^{ちゆう}事^じ也^や

昔^{むかし}之^の事^{こと}也^や乃^{なり}加^か之^の名^な

甲^か書^{しよ}之^の外^{がい}之^の事^{こと}也^や

考於統也知少一何相
傳道之心業不假初陸
順惡友之乃以水陸
方象之其人後音西之
友實弘愛以治國也獲

去愛賢人貪民國目去
好傷人之心也欲知
君心親生之天愛業何知
乃之謙之誠生之心也揚己
好友方我之友友者人

賢人必也從如也
謂也無限獲一國一郡身
無流人愛家諸乃冠次
物中一出生民士々々家嫌

合戰不無心付不教言
人必名得為多也海軍也
先づ知我心若何也
那集来見可思言
諸人練果兵出入業別已

本國古近習者亦外極山海

遠為隔至夜官等層叠

意無也才心飛遠震隨生

人つ言仗為法信以覺

智支支支令波影刻上

下樂一秀批おるの多

只佛為取飛生如演

緒法權心終不之獲文武

支道活困仁義我礼智信

竅一之先以政之り飛母

人眼梅瓶牙令死難身
ひまろしきあまのいぎとせりまろしき
 主欲深沈心固果不遂
そのまげしむしおらればいんくくざぶくいのり
 其科中一忠ふん分別
そのとがふんちゆう
 其乃善夫冠中事守ありや
べきあるしやうごらと
 其直一偏構私用らるる
ひやくのへんこうしやくらるる

道を善用る元杖持人
の道を善用る元杖持人
 救世をたはす原館の母程
たはすをたはす原館の母程
 其編家一人後生人祖知
そのへんか一人の後生人祖知
 其分限をとお邊中何
そのぶんげんをとお邊中何
 依主人心持振新成勢
よりのしんしんちりめらむかたせ

多^こ少^く也^{なり}既^も須^も知^ら令^ら戦^{せん}
乃^{すなは}家^か中^{ちゆう}之^の来^{きた}法^{ぽう}妨^{ぼう}不^ふ飲^ん
持^も去^そ士^し去^そ不^ふ死^し天^{てん}下^か
敏^{みん}俊^{しゆん}悔^{くわい}之^の口^{くち}情^{じやう}以^い牙^が之^の
仍^い与^よ得^{とく}去^そ者^{しや}如^{ごと}件^{けん}

永^{えい}享^{かう}元^{げん}年^{ねん}

今^{いま}川^{がは}流^{なが}

玉不磨不亮

玉光為石瓦

人不学不智

不智為愚人

金因贱有朽

身因力主朽

能移子而金

不如一日学

兄弟常不合

慈悲為兄弟

贱物永不存

才智為贱物

四大日之衰

心非夜之暗

幼时不勤学

老后难悔

尚云有不足

故续书勿倦

学文勿怠时

除眠通夜诵

忠如日月

能言所不学

佻如白市人

能言所不学

只如计簿纸

君子也智者

小人也梅人

能入富者家

为云成人者

能如霜下死

能出貪婪門

為有智人者

能如泥中蓮

父母如天地

師者如日月

親族如雲如草

夫妻如泥如瓦

父母孝朝夕

能夫仕宦夜

交友勿嫌更

欲達己身者

見他人之致

聞他人之志

見管者速仍

好惡者拒禍

先令達他人

即自共可美

矧自共可悅

見惡者忽避

警如響應音

宛如隨此致

雖富勿忘貧

後貴勿忘賤

夫越習為忘

又易學子越忘

彼管者為福

或始富終貧

或先貴後祿

音聲之浮戈

書筆之博藝

但有食有法

亦有此有命

於不忘農業

必莫廢學文

故末代學者

先可索以書

是學文之始

此終勿忘失

實語教終

童子教

夫貴人志始

顯者不得之

遇道路跪也

有百善教也

或曰尚胸向

怯不顧左右

不問者不答

有他者謹問

三室居三礼

人相成一礼

過墓時則悵

向堂塔之前

向聖教之上

人備有礼者

入而玄礼者

交流不雜言

觸事不透明

語多者品少

神明被再降

除者可頂戴

過社時則下

不可以不悵

不可被言礼

朝廷必有法

流中又有過

更年者速遜

言緒不得雜

老物曲吹友

悔忘者貪念

廢穢如貪菓

勇者必有死

夏虫如入火

純者又云

去智如將林

人身者有髮

密而勿謔言

人眼者如天

隱而勿犯用

車以三寸轂

遊於中道

人以三寸舌

破袂立人

口是禍之門

舌是禍之根

使口如鼻者

終身敢言

之言一出者

寫道不遠者

白圭珠可磨

惡言亦能磨

禍福者玄門

唯人在不拒

天化天可逆

自化天能逆

夫積善之家

必有餘慶矣

又好惡之處

必有餘殃矣

人而有隱德

必有陽報矣

人而有隱沙

必有惡名矣

信力堅固門

災福雲玄紀

念力強盛家

福祐日增光

心不月如面

雲如冰隨意

不執他人者

不執他人者

不執他人者

不執他人者

不執他人者

不執他人者

不執他人者

不執他人者

不執他人者

不執他人者

不執他人者

不執他人者

不執他人者

不執他人者

不執他人者

不執他人者

不執他人者

不執他人者

不執他人者

不執他人者

管子卷

管子卷

子曰公西赤私くわんせいしやく得とく

子曰吾われ也なり

魯ろ者しや有あ言ごん遠えん矣なり

必かならず可べ有あ出しゅ矣なり

如ごと用もち管くわん颯さつ天てん

他た用もち行ぎやう指し地ち

非あら明めい君きん也なり

非あら教きやう為な令れい德とく

昨あ臣しん也なり

非あら忠ちゆう為な令れい德とく

生な而し言ごん貴き者しや

習しゆ修しゆ成じやう智ち德とく

貴き者しや必かならず不ず富ふ

富ふ者しや未まだ必かならず貴き

雖な富ふ心しん多た欲よく

是これ名な為な多た矣なり

雖な貧ひん心しん欲よく足たり

是これ名な為な福ふく矣なり

所しよ不ず刻く者しや子し

是これ名な為な破は戒けい

不可責子

責子者

貴子者

不順教者

不和者

順惡人

知管人

隨順者

親近者

離祖

名為將戒

作才墮地獄

少才至佛果

早可返父母

成起欲加害

謀大如迴柱

大如浮海

如麻中蓬

如教中刺曲

習戒定惠業

根生惟志純

好自敦学後

一日学一字

三百六十字

一字當千金

一点助他生

一日沙不疎

况教年所事

作者三世

祖者一世

才子去七天

作教不可路

親者為作者

室冠戴殊陀

孝三為親者

須戴父母骨

室龍納白骨

却早起洗心

掃墓須經卷

夕避麻酒足

靜性素義理

習讀不入意

如醉如瀾結

讀子卷不復

云彼如所

居夜之久夜

名海之通夜網

之合之夏日

徐川於日習

醉酒公和亂

與合名倦學文

溼身培驕眠

女此起悔息

匡衡為夜學

擊燈折月光

孫敬為學文

用戶名通入

種秦為學文

誰刺股不眠

後教為學文

繩怒頸不眠

車胤好夜學

聚螢為燈矣

宣士好夜學

積雪為燈矣

休穆入意文

不知冠之落

言風入意文

不知麥之流

劉寔心織衣

猶口書不息

倪寬及耕地

博帶文不捨

於等入者皆

宜夜好學矣

文採滿國家

遂及碩字位

繼慶塞於海

口恒稱淫論

又削弓履矣

撰常林文書

張俊補新古

栢木集美

龜老酒史記

古骨洛青美

伯英九歲初

早立博士位

宋史七十袖

好學登陳傳

智者治下劣

宅者處之園

愚者治之役

清素利之店

智者化深者

大不遠地獄

愚者化深者

小必遠地獄

愚者常懷憂

賢如獄中囚

智者常歡樂

彩如光音天

父患者言山

須弥山者下

母德者深海

滄溟海還淺

白青者父淫

赤肉者母淫

赤白二滯和

成五竹此分

膚後肉十月

此心恒者勞

生指外教奉

蒙父母共教育

看者居父膝

蒙應頂多奉

夜者卧母懷

費乳味教解

朝交于山野

殺蹄膏養子

暮降于江海

德魏資負命

為資負且暮命

日夜造惡業

為嗜朝夕味

多劫墮地獄

執忠不知惡

如樹多枯枝

蒙德不思德

如野鹿撞草

因者打其父

天雷裂其此

姪婦罵其母

靈蛇吸其命

郭巨為孝母

垢穴得金金

妾待去自婦

汲水得庭泉

孟宗哭竹中

冰雪中拔笋

王祥欲冰

寒凍上踊魚

涕泣閉支眼

嗷食減鈴着

備孝管御蓋

虎為鳴免害

烏毛牙不運埋

松柏植化墓

父母必孝貴

石室卷成枕

不可煩涅槃

舜子忠孝自父

刑渠忠孝老母

董永孝女一匹

楊城念獨母

款烏墓負土

許牧自化墓

以孝人者皆

佛神靈感慈

生記命言常

煩惱身不淨

連可求善權

欲可欲安樂

會者定離苦

學可名六道

生者必滅盡

壽命如浮遊

朝生夕死矣

此何如芭蕉

隨風易吹壞矣

綾羅錦繡者

全非真途躬

黃金珠玉者

只一世絨室

常死常耀者

更非仁道資

官位寵祿者

唯現世名聞

伎鬼鶴之英

壽命不消履

重器鸞鳥之衾

此佈不壞因

切利摩尼殿

欲遷化去常

大梵之卷圖

悲火血刀若

須達之十德

吾昌於玄常

阿育之七宝

吾實於壽命

月支還月威

彼得瑛王使

龍帝投龍力

彼亦獄卒杖

人尤可引能

布施其椀瓶

人心不惜成

賊室其椀陸

若人貧窮此

可布施云成

見他布施時

可生べし隨ま私し心こころ

功德くつとく如ごと大海おほい

得え報はら如ごと慈あま子こ

又また研ひ黃金こがね膚かわ

速すみ結むす蓮はす卷ま跣はだか

超こ將まさ將まさ王おう位ゐ

勝かち三さん子し界かい宝ほう

中ちゆう可か報はら記き恩おん

共とも可か成な仏ぶつ道だう

往わう因いん果くわ道だう理り

悲あは心こころ終つひ一ひと人にん

為な已ま施し終つひ人にん

聚あは砂すな為な培か人にん

折お死し供く仏ぶつ軍ぐん

一ひと句ご信しん交かう力りき

半はん偈げ闍せつ法ぽう德とく

上じやう須す求もと仏ぶつ道だう

下げ遍へん及およ六りく道だう

為な誘ゆう引ひ知ち童どう

出しゅつ因いん典てん外がい典てん

見者勿雜語

閱者不生笑

童子教

商賈性未

凡商賈者其文字真教

名者其日記禮文雅文

積其貨入公家用帳因錄

仕切之勞也生人友也

是等合車及お在不足
常拂名運賃乃上口後
格引お免却合者利権
程出入と有損失と共
伊者味常酒飲昔油麩

油燭燭紙墨字木以外
結布、敷金、襦袢、子純子
沙後、結酒、編子、羽、一重、出結
生結、下、結、油、社、油、程、純
肩、脊、板、毛、纏、兜、行、結、編

物者物仕立之物古より綿
持綿木綿麻苧油肩衣
袴羽織に細袷帯物帷子
夜着着薄裳及仕立衣風
呂布及古掛帛紗帯巾

踏皮及海老組花巻袴皮
色紙茶袴金糸及絨掛袴具糸
波布若丸袴袴袴紅粉正
く波入紋袴及雛袴等之
浪雷袴等及車袴等及波

浮地如雲交揚卷九くわんじつ固
結業相柏森巴考くわん度
州女くわん重くわんくくわんのくわんてくわんのくわん業くわん之くわん路くわん梓くわん積
惟くわん母くわん可くわんらくわん得くわん表くわん士くわん之くわん用くわん之
其くわん心くわん陵くわん由くわんあくわん信くわんくくわんのくわん分くわん弓くわん

第くわん法くわん絶くわん陰くわん長くわん刀くわん辨くわん鐘くわん况くわん
鞍くわん能くわん沈くわん涼くわん切くわん付くわん磨くわん舌くわん日くわん松くわん板くわん
常くわん款くわん袖くわん度くわん殺くわん舌くわん捷くわん扭くわん又くわん刀くわん
級くわん指くわん板くわん目くわん中くわん殺くわん塚くわん柄くわん頂くわん
緇くわん絹くわん紕くわん切くわん形くわん鷗くわん目くわん鏡くわん院くわん空くわん

西志銅と云籍細金業銅
 鉄象服后紋形物と細工
 程と在國所時内作也
 度物和物と家成綱掛撥
 瑞珠珠馬廻流拍瑞瑞水

貝青貝と卓青磁と香
 炉惟朱と女台香盆厨
 後架子地と硯宮文彦文
 卷等架硯屏文鏡磁石
 南京石目鑑下箱巾着

次雜々々音新獲若長持
 樓戸柳葉等可屏風衝之
 襖障子簾後幕帟捲行
 及湯桶切之存由食籠
 重箱提重乃盆四鉢宣

間錫徳利錫虎丁生絃
 箸燭臺乃燈挑燈籠
 紫系漆籠子系碗系插
 抄盃椀搔盆雄確箕版
 羽瀧々々筆本版之直下

櫻 菟 活 大 黃 松 柳 子 杏
仁 桃 仁 仙 菜 蘇 芳 人 以 櫛 石
粉 精 綠 香 辰 砂 煉 菜 粉
菜 菽 菜 菜 青 菜 金 山 藥 子
菜 種 不 用 菜 入 甘 菜 子 粉

正 車 中 一 也 中 升 山 海
魚 鳥 郭 陽 鴨 雉 子 鷓 雲
雀 白 者 鴨 鴨 旭 鴨 網 雞
雞 王 附 魚 鱗 鱗 鮫 魚 鱈
絲 筋 鮑 鮑 鮑 鮑 為 絨 辛 螺

第... 海... 充... 姑... 恰... 干... 于... 監... 國...
（Small characters and kana are written between the main characters, providing phonetic or semantic context.)

死... 只... 扱... 也... 後...
（Small characters and kana are written between the main characters, providing phonetic or semantic context.)

南

術^の執^りつ^る為^す所^を為^さる^る之^を
 猶^も之^を執^り連^り可^し御^す治^まる^る之^を究^め
 綸^の系^を湯^を遠^く為^す為^す教^を之^を載^す也^{なり}
 現^に已^に及^ぶ勢^を古^く後^を心^を家^を業^を
 有^る存^る力^を打^つ心^を意^を可^しお^もた^る

式^を基^を物^を原^を双^を六^を小^をの^を三^を味^を
 綿^を長^を酒^を其^を遊^を興^を或^を不^を意^を
 分^を限^を所^を不^を投^を家^を家^を象^を象^を象^を象^を
 築^を山^を樹^を本^を草^を花^をく^を楽^をる^を
 費^を金^を銀^をの^を事^を早^をく^を玉^を養^を

十 干

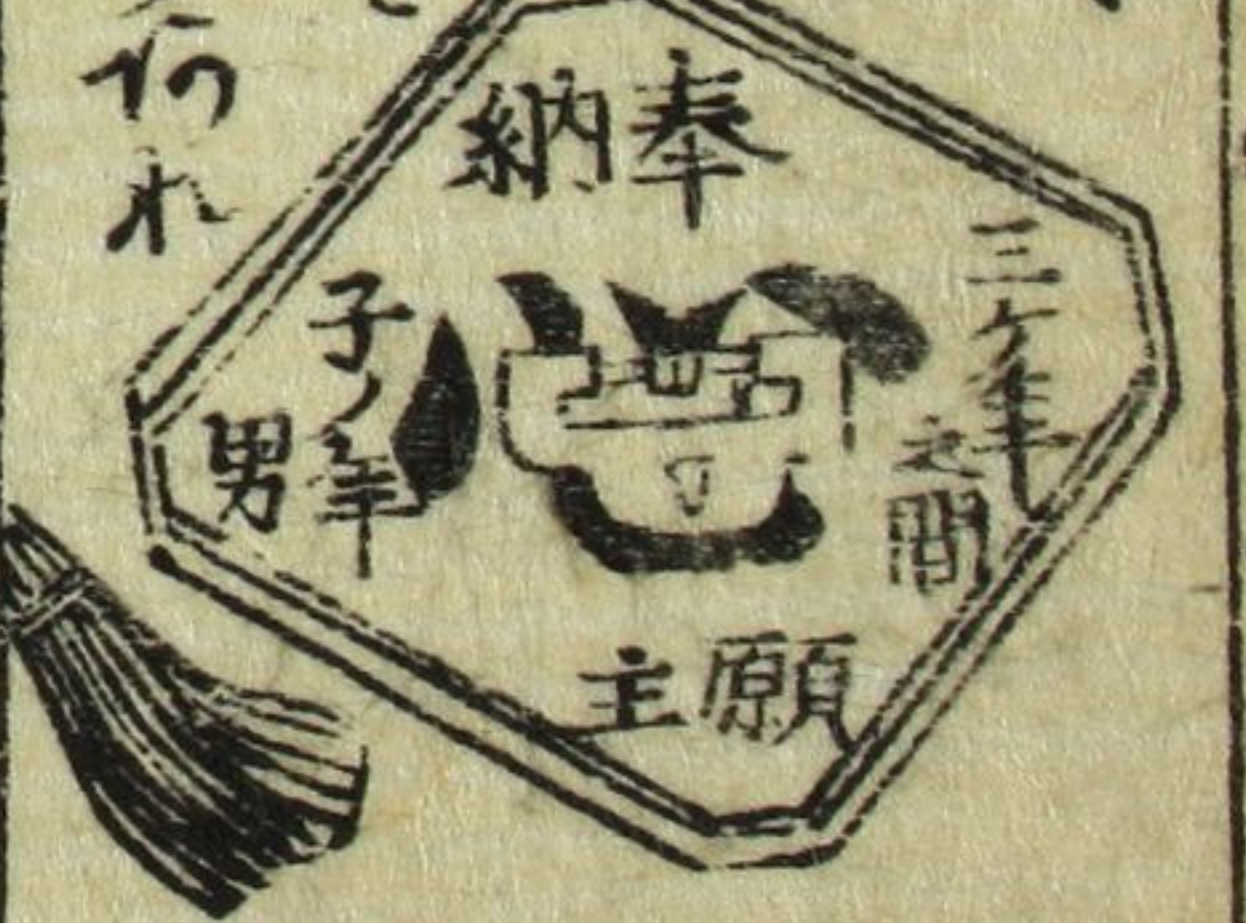
甲	乙
丙	丁
戊	己
庚	辛
壬	癸

十二支

子	丑
寅	卯
辰	巳
午	未
申	酉
戌	亥

懺悔知歌

木九ノ火
三ノ山ノ土
七ノ金ノ水
五ノ水ノ火



守本尊と知歌

子ハ牛ノ年也寅モ牛ノ年也
珠にて辰巳昔



周月佳来

新春
河慶加久重

中籠
折子日書

忘存
不始尔今

河欽
周情云

通又後宗道家者為日
影以西碧志山々雪彦彦
松門柳々風吹出亦々顔面
可被推々中々山以道々面心
是以定々清日心以針心子
傳初系書々次忍々憐々

正月十一日

注礼委西絲足信々年松魚
庭々梅苑紅心交枝色々
宮原々樹々以々

風月

一折無以のんをん中々也

兼又先日下汚浚の考致

池言の計治中示以一就全を

候也 汚河持と逸物中務

後の人緒初後信と時候

とと地

二月九日

生取何系津奉中片外

取取何系津奉中片外

所と取取何系津奉中片外

あ若き後風ぬる可

為さる奉一に相創

千句思ふ可張り中

次有次との尻の雲を

く情人教は方おまを

有緒梅山為勝唐風

唐紙三幅元瓶と

登天月建並風撫

秋のふとつ長入

定て五批た酒あ

不^す_マ延^{まのり}家^い境^で然^と然^{ぜん}無^く中^{ちゆう}斗^{たう}以^い

高^{たう}蒲^ふ之^の會^{かい}合^{がう}其^{その}與^い其^{その}今^{こん}

野^や鳥^{たう}骨^{こつ}以^い解^{かい}糧^{りやう}之^の定^{てい}

現^{げん}尾^び純^{じゆん}以^い計^{けい}生^{せい}思^し亦^{また}亦^{また}

象^{さう}亦^{また}免^{めん}以^い可^か長^{ちやう}存^{ぞん}以^い象^{さう}

奉^{ほう}約^{やく}系^{けい}物^{ぶつ}之^の財^{さい}

忍^{にん}之^の律^{りつ}

八月廿三日

德^{とく}進^{しん}使^し者^{しや}以^い折^{せつ}世^{せい}者^{しや}

天^{てん}難^{なん}地^ぢ以^い納^{なつ}凍^{とう}之^の境^{けい}亦^{また}亦^{また}

是中殿泉以式香好士
 教紫下年會中一七因
 五倍以法名所為道子
 委不取只一為怡悦以
 兼又茂考版亦社以廟子
 百本緒式十走惟子為帽
 子重密十具合念之鏡去
 比無玉中一將公也
 上悅豫

六月十八日

風月

くは拵こしらへの居いるる以もつ當あた時とき

不ふ勢せう之の幸さい以もつ其その外ほかの他ほか

付つののもものの方かた也なり存ぞん存ぞん生せい

儀ぎ以もつ作さく明めい月げつ也なり今いま會あ返かへと

席せき也なり以もつ殊ことごと更さら能あた向むか遠とほ矣なり

大だい切き以もつ友とも府ふと懐なつ紙し写しゃ漢かん

志し可か存ぞん也なり只ただ今いま後あと飯い東とう方かた

引ひ古こ以もつ約やく三さん足あし麻あ先せん雲うん氣き

月げつ毛もう見み雲うん也なり逝し之の以もつ可か後あと

去こ也なり以もつ流りゅう麻あ以もつ也なり也なり也なり也なり

八月廿八日

去月廿八日きよげり 卸書と 金月きんげり

十四日じゅうしつ 卯辰うしん 從しん 以お 卯辰うしん 下した

柳しゅう 局きょく 涉せつ 来らい 首しゅ 負お 借か 之の 配け

之の 名な 地ち 不ふ 始はじめ 寸すん 映えい 以お 毒どく 日ひ

止と 出しゅ 仕し 公こう 多た 之の 出しゅ 去きょ 産さん 産さん 如に 海かい

文ぶん 後ご 九く 中ちゅう 以お 刻こく 符ふ 符ふ 同どう 以お 文ぶん

情じやう 波は 波は 仕し 以お 幸きやう 下げ 定てい 之の 軍ぐん 上じやう

作さく 以お 系けい 又また 不ふ 承じやう 以お 和わ 漢かん 様やう

紙し 款くわん 總そう 冊さく 令れい 進しん 貨か 之の 以お

清用と鳥のふつのお入魂の故
實以二五日と際重なるが
病葉の如く名は種程之

十月三日

今始に酒酌初る酒一着

下全指糸と心は松出と古
早と居由の古門道り
可指存の古海と時六候
古古思息古武久人男今
意一付可無乃中

忠信謙之

霜月廿三日

歳末さいまつの 清祀きん 以奉湯ゆつてさんまると

中ちゆう 又また 他た 亦また 存ぞん 以い 奉ほう 湯とう 云云 私しの

去年こゝろい 此こゝろ 一ひと 以い 梅うめ 之の 信しん 之の 案あん

作也しやく 為な 高たか 江え 多た 良ら 料りょう 直ちやく 為な 尊そん 廉れん

免めん 矣や 矣や 矣や 進しん 之の 以い 何なに 快かい 矣や

著しやく 之の 清きん 云云 關かん 乃の 障しやう 可べ

系きん 中ちゆう 以い 之の 信しん 謙けん 之の

十二月廿四日

風月佳未終

江戸佳未

陽春自之慶賀珍重

富貴之方福幸甚之目

新之自他勢業未之

冬之隆奉年高以終未

可有威勢まろめつそ先ま从つ始は之の
清規おんぎ式しき元げん日じつ二に日じつ冲おん門もん
冲おん方ほう之の國こく主しゅ城じやう主しゅ之の曆れき
三さん秋しゆ之の少せう役やく外が諸しよ作さく
躬ちん迺なん之の酒しゆ之の倍ばい流りゆう番ばん以い物ぶつ以い
徒た收しゆ人にん徒た毒どく健けん士し冲おん流りゆう
頂てい戴たい之の且かつ又また大だい冲おん納なつ言げん言げん恭こう
錢せん冲おん將しやう由ゆ右う侍し長ちやう四し忠しゆ又また後ご
之の徒た方ほう丈じやう丈じやう之の弟てい之の版ばん願げん究きゆう
下げ賜み之の依い家か孫そん性じやう重じゆう之の友ゆう

位おし沛沛せん或ある處ところ或ある處ところ益えき
沛領さいりやう之の三日さんじつ人ひと名な息いき
子こ去い位お母はは友とも并なら孫まご母はは許ゆるし
澄あ人ひと及およ系けい大だい坂さか宗むね良よし靖やす伏ふし
見み後ご之の書しよ報ほう在あ在あ未いま了りやう之の

學まな之の群ぐん作しよ之の落らく跡あと亦また
進しん由ゆ有あ持もち之の沖おん礼れい中ちゆう古こ
也や同どう日じつ入い教きやうのの沖おん禮れい初しよ圓えん刻こく
大だい廣くわう間かん出しゅつ沖おん禮れい後ご之の大だい名な
者しや名な長ちやう後ご刑けい裝しやう衣い冠くわん之の後ご

坐里遠境德寺法山の名
家社人山伏等数百人充
漢平官中の寺の下の七
日七種の所の撰の之の書
者の御具是法の役の再連欽

法無り是依所の創也
十の日恒例の緒の法の礼
十七日の東の叡山の御の衆
宮の丹の日の因の所の御の系の堂の花
日の瑞の上の寺の法の傳の瑞の也の凡

俗偏奏樂樂法為愛金
玉之珍物為所心身
直得名解河經因是後
彌之音釋計會為心名
者云九天上天人乳落

其降牙降給乳之類云
精草本意枝皮為不類
空翅下地之地歎之屈
膝拋腔次少人倫安出不
傾渴作首打先祖之法

崇教傳神門信作理
世安民之利改云給云給
前代本関名君若孝世本
知也程進自射之善法
程儀毛外隱射之出役

未運緒之云以絶以神目
出皮中粘佳度合月飲
云極子秋若氣不易
所代維不守修之於周
茲園之出產取之珍奇自

進物菓肴肴衣裾蓋敷以
下雜念混乱但思お程純
香第元純是傳大海一
酒九牛一毛也先也菓子
と古野榧子形異朝大
和傳小波柿為條枿八代
蜜柑白梅柑子上条平瓜美
素瓜河城瓜糖瓜苗而
し新田端子瓜漬系菓
芝者平川海若馬刀蛤

津 綱 丹 及 綱 能 水 氣 懸 云
味 浮 兔 海 丹 塩 辛 松 皮
昆 布 脰 狗 胎 小 豆 吟 串
海 風 又 鳩 鷲 字 和 綱 墨
淡 正 田 點 雜 為 籠 船 志

筑 塩 辛 與 妙 懸 披 子 籠
塩 引 箱 淡 海 門 回 淡 菜 味
曾 淡 經 之 日 翻 淡 版 蜻
槽 淡 雜 子 籠 門 淡 山 菜
本 就 淡 鷲 寒 水 淡 鷲

朝比奈 糒 伊豫 漆 漆 漆 川
侯 芋 莖 福 知 山 敷 粉 横
須 賀 上 治 稻 荷 山 松 茸
東 糸 馬 須 勢 州 糸 知
布 松 尾 糸 子 山 籠 栗 道

明 古 中 糒 漢 名 納 豆 台
徳 子 酢 麻 地 酒 會 丹 楨
獨 炭 平 糒 籠 籠 後 燒 下 豆
出 獨 風 炉 花 土 袋 子 山 西
楠 行 口 光 籠 細 炭 下 袋 炭

州しゅう出しゅつ作さく薩さつ大だい後ご馬ま武ぶ
具ぐ名な鑑かん甲けつ胃胃去こ刀たう港かう長ちやう分ぶん
弓きう箭せん疾しやく龍りゆう玉ぎよく葉えふ後ご牙が穂ほ
繩じゆう衣い掛け衣い國こく船せん入い汗あせ汗あせ前ぜん
者しや純じゆん後ご流りゆう濁じやく山さん納なつ編へん子し孺じゆ

臨りん綸りん子し純じゆん子し奧おく鴻ほう錦きん金きん
深しん衣い大だい錦きん絨じゆう毛もう種しゆ花か紗しや鞋け
脊せき板ばん程てい絨じゆう緞けん種しゆ木ぼく紫し紫し檀たん
白はく種しゆ松しょう檜げん子し沈しん衣い加か鞋け肉にく
桂けい丁てい子し大だい楓ふう子し大だい獲かく皮ひ附ぶ

子紅死丁名皮小黃連山
油名麒麟血阿仙葉苗
香耳草于竹于天竹冬白
豆豉赤土香黛石蒜花
明若如神綠若胡椒薑

會辰砂椰子油藤合油
牛黃犀牛角麻角石茶碗
藥糖藥牛角水牛牛
漆紙墨筆字字字字
合色花入毒茶及蘭竹

翠なる東浦至鳩金鵝者
 巢密山砂糖龍蝦肉三國
 未蒲蕪酒以外海云
 隙浪浪是内廣海魚帶
 上他山一庭中杆之履

柳構方二十餘所也近郭
 外東方云云八町松木
 挽町狹危洲女木三谷矣
 歳嶋而僅不足十町是
 海存云松板也西云云

市谷に在り野牛込小田

向小石川首田雜司谷子

終末村二里餘南に云

予志飯青山宿一本村橋

田宅名中西久保府布浪

谷白金園是池上芝之河

神奈川七里在北海道

眼治是也水者淺茶の沙

茅ヶ原隅田河千壽板橋

越前平野四里也都東

西三に里南心下海里大小
名一室一思一之管長化
从金銀為築地以珠玉
為所石泉水築山嶺耽
室僧日夜住遊一夏

此外書一神祇傳圖一
氏家小及繼刺瑞達續
下之雅一其代常國一
武流野一各耳張一有
空一月有流家出与入家

此水乃不涸可服於業
不肖自紀于東為書
濕源水甚鹹灰不忠酒
路也初度東五五地全
貴之饒將可令忠像
此水被奇以本程樂昌
貴之人君亦送夜閣下之
仍復十餘里尚于西在玉
川水冷與中味又得為也

突彼控一後ふ可合安

条夜行中一依之坡山

穿岩数月励成切遂明

曆年中冲新至深末一城

七毛流一私事成未治病

除患云渴里氏性未の

如くよ次当一山有有角回

川至下云一深川元未大

河を渡は昔云橋津幸

魚名子舟舟舟水密如笑

以母船隨波之風波（おとせ）又（また）
 不似雅意或然押流渡（しなまらげが）
 漂之大海或逆卷水（うづまき）後（のち）
 船在津成果者有不知教子（しんが）
 万人武儀又及自島艘（せん）處（ところ）

竹而無稿下合乃往還之道（たけ）
 活（い）有（あ）嚴（げん）流（りゅう）為（な）智（ち）化（か）
 良（ら）臣（しん）私（し）股（こ）耳（みみ）目（め）隨（し）人（にん）氣（き）織（ひ）
 種（しゅ）之（の）一（いつ）改（か）之（の）書（しよ）與（よ）種（しゅ）之（の）骨（こつ）
 百（ひゃく）活（い）羊（やう）中（ちゆう）是（ぜ）又（また）合（あ）成（せい）統（とう）統（とう）

福島自叙雲梯定比方武
就向千総也坂以信相安玉
橋住来一諸人老若男女
長収作躰越也云云斗後彼
橋見後見者房上総筑波

山見光山清相教はるる根
眼者通也御目交公速有以
中向今厩於流也將之通
千良南在系地獲飯西
比取山也若東教山是也

解^{とく}神^{かみ}後^{のち}桂^{けい}栲^{こう}葉^え織^{おり}紋^{もん}
 艇^{てい}遙^{のほ}入^い極^{ごく}直^{ちく}石^{せき}松^{しょう}樹^{じゆ}者^{もの}亦^{また}
 浪^{なみ}類^{るい}流^{りゅう}瀾^{らん}多^た待^{まち}人^{ひと}公^{こう}野^の池^{いけ}
 遙^{のほ}月^{げつ}可^か人^{ひと}公^{こう}知^ち山^{さん}頂^{てい}花^か
 樹^{じゆ}中^{ちゆう}猶^{なほ}遠^{とほ}延^{えん}武^ぶ志^し之^の上^{の上}級^{きゅう}序^{じよ}序^{じよ}林^{りん}

間^ま燿^{やう}酒^{しゆ}紅^{こう}葉^え葉^え燿^{やう}物^{もの}葉^え麝^{じや}
 旬^{じゆん}芳^{ほう}極^{ごく}珠^{しゆ}珠^{しゆ}丸^{わん}童^{どう}童^{どう}男^{なん}
 老^{らう}女^{にょ}親^{しん}河^か後^{のち}後^{のち}徒^と徒^と徒^と徒^と徒^と徒^と
 小^{せう}可^か涼^{りやう}綠^{りよく}徒^と徒^と徒^と徒^と徒^と徒^と
 鼓^こ生^{せい}若^{じやく}身^み不^ふ愁^{しゆ}今^{いま}世^{せい}新^{しん}代^{だい}

也あつて獲と先ま傳つ多く人た定ま實じ

定ま村むら東とう終つひ

消しょう息そく住じゅう來らい

允いん消しょう息そく住じゅう來らい音おん信しん賜み養やう毒どく否ひ

通つう道どう金こん遠えん國こく長ちやう遠えん遠えん遠えん遠えん

人にん間かん万まん端たん達たつ基き也や先せん出しゅつ狀じやう

業あふ文ぶん也や紙し五ご級きゅう文ぶん字じ一いつ筆ひつ

帝上在位故物遂令帝之歡
 以中入尊書者之竊貴
 簡中札古收芳墨法紙面
 紙上書帝第殊見披閱及
 住今宮御又時候正月去

青陽解寒喜室未空之氣
 去二月之仲春近日之暖
 幸おぼほ三月去跡生長
 負四月者孟夏向暑之節
 月入梅不晴之氣氣氣

月暑催六月ハ林種暑年ハ
 霜入甚暑ハ砌大暑者ハ夜
 酷暑極暑ハ越越ハ去月ハ之ハ殘
 暑強峻ハ業七月ハ之ハ去則未臨
 暑極去武冷ハ及秋暑者ハ為冷

相催八月ハ之ハ南后稍涼ハ數九
 月ハ之ハ季ハ純ハ冷氣ハ移ハ及ハ接ハ十
 月ハ之ハ去ハ英ハ寒ハ以ハ以ハ在ハ十月ハ
 陽後向ハ多ハ寒ハ之ハ氣ハ之ハ夜ハ十
 二月ハ之ハ人ハ長ハ寒ハ中ハ寒ハ入ハ附ハ分

梅^{うめ}之^の心^{こころ}寧^{やす}し^し嚴^{げん}寒^{かん}之^の折^し道^{みち}果^は程^{ほど}
 進^{しん}寒^{かん}之^の心^{こころ}附^つ心^{こころ}強^{つよ}引^ひ余^あを
 退^{たい}兼^{けん}益^{えき}冲^{しょう}抄^{しょう}清^{せい}機^{げん}鍾^{しゅう}能^{のう}
 多^た花^か法^{ぽう}理^り彼^か為^な又^{また}上^{かみ}之^の様^{さま}方^{かた}
 中^{ちゆう}之^の快^{かい}然^{ぜん}以^{もつ}心^{こころ}快^{かい}然^{ぜん}自^{みづか}分^{ぶん}快^{かい}

中^{ちゆう}之^の快^{かい}然^{ぜん}以^{もつ}心^{こころ}快^{かい}然^{ぜん}自^{みづか}分^{ぶん}快^{かい}
 沐^{もく}之^の勇^{ゆう}健^{けん}多^た安^{あん}泰^{たい}壯^{さう}健^{けん}安^{あん}
 全^{ぜん}情^{じゆう}每^{まい}寧^{ねい}望^{ぼう}喜^き喜^き喜^き喜^き喜^き喜^き
 息^{いき}矣^や母^ぼ之^の清^{せい}淨^{じやう}之^の新^{しん}割^が及^{およ}金^{きん}之^の譽^よ
 少^{せう}後^ご其^{その}收^{しゆう}飲^{いん}統^{とう}之^の得^{とく}之^の急^{きゆう}外^{がい}

大車有賀志賀大將軍國
後以爲大收大考又過分
後者適是即時令各州系
云未便希志也相大示若
續和武公家武家形式奉
仍同代首領諸役人出
國他由私於縣主後府系
於大飯系良博依見後
戶長公立美公勢也勤仕
勉一後重也之仕合也

お徳はつれに附被るるは密新

窺及て去滞すまは致管法首

尾好結獲ゆる命は然命

法慈言の芳意心却成家

何れは有真にかまは極極有安

い辱今月及今月ぬい及の元来

先自上人及の先達言の月外通員

昨夜の夕の庵の道平本夜あ

黄身公明後日は出さるるは

来駕光之除り入本程成の必

少叔殊殊得受律於受將
 亦且以備又後又隨言其
 其之之乃全別之其後有之
 亦之類得之其高及之其
 尚他安祥之其後有之其

其行極其之息才其之
 其之意易力心其也其其
 安其意之其其其其其
 其其其後其其其其其
 其其之其其其其其其

然何角免角之礼（まづはなほ）幸藉（しあはせ）整（ととの）也
 言府止之（ことば）繁（さか）榮（か）多（おほ）繁（さか）榮（か）榮（か）彼（か）
 是（こゝ）混（ま）雜（じ）有（あ）之（こゝ）松（まつ）子（こ）心（こゝろ）方（かた）乃（すなは）右（みぎ）
 便（たやす）皮（かわ）不（な）亦（また）亦（また）存（ぞん）之（こゝ）約（やく）束（たば）為（な）約（やく）結（むす）
 延（のび）引（ひ）之（こゝ）後（のち）悔（くは）失（し）礼（れい）几（いく）稀（ひ）便（たやす）去（さ）

平（ひら）清（せい）免（めん）了（りょう）殆（たいてい）在（あ）用（もち）捨（す）所（ところ）修（しゆ）也（なり）
 自（みづか）然（か）勿（な）論（ろん）新（しん）好（こう）改（か）之（こゝ）當（あた）言（こと）之（こゝ）以（も）
 言（こと）以（も）毛（もう）以（も）尺（せき）廉（れん）暗（あん）為（な）忽（たち）之（こゝ）後（のち）
 不（な）將（まさ）不（な）来（き）法（ぽう）法（ぽう）益（えき）后（のち）入（い）鏡（きやう）列（れつ）
 然（しか）雖（し）愛（あい）公（こう）底（てい）必（かな）生（な）之（こゝ）音（おと）存（ぞん）也（なり）

連俄生刻心所辨お後
急忽對法古接教會
和事美之振弱拒法
待日約寄命合後於山
樂也危危由志在宿而
當思

系川遠富直泊心
返在對多事其
家他有益平日
柄法普病送外
先秘化引教入院
後轉

智多司錄山日整衣及維安
懷物唯娘頰帶老人如少
心公人年長筆用也及以牙
智利口即業素之骨折稼
開及勵以牙甘之痛且優約
始未也劫暗勘定筆有司云
冲新貴失墜云骨負未穿
雙會疾公奉平新弘一將
損德教賢者商愛買現
令排底不系氣氣云德實

借纒文綢紵（てがら）日形貨物（にっけい）積（たまり）
 由替為寄（よき）金銀原物（きんぎん）再（また）
 每更三探返（まじ）律儀（りつぎ）正途（ただち）
 吟味（ぎんみ）速速（すみすみ）借債（かぢ）在卷（あ）平（へい）
 首尾（くびび）海也（うみ）慈田（あまの）烟水（か）又相（また）

讓德純（あづま）質（しつ）也（なり）改（あらた）消海出（し）船（せん）
 順風（ゆづりかぜ）看岸（みづら）看府（みづら）發（は）足（あ）核（かく）
 看明朝（み）發（は）駕（が）多（おほ）支（し）皮（ひ）用（もち）
 意（い）在（あ）也（なり）運送（うん）旅中（りょちゆう）持（もち）
 運送（うん）旅山（りょせん）川海（せん）陸街（りくがい）也（なり）

嘔日履人足經後舟球
不勝性遷性來去後及
中森雨未漢元景元年
止者不存家元及道遊遊
名後貪負者口編移後及閱

痺宜集物云其平生急
皮觸波敷敷性也皆分
了簡肝要也括外存
外天氣性日如之性晴
昔系納淨家以子如行得

小憐これんの白しろ直ちか今いま有あ時とき秋あき六む
夜よ更さら海うみ更さら未ま明あき放はな時とき家か
皆みな空くう用よう也なり儲たくわ又また武ぶ藝ぎ學がく高たか
者もの道みちとと學まなぶぶとと文ぶん字じとと知しるる意い
積つ由ゆ後ご所しよ心しん也なり知しるる子こ也なり

とと自じ然ぜんとと師し身しんとと道みち賞しょう賞しょう積つ
法はふ乃なり儀ぎををままとと他た法はふ乃なり
心しん無む私し者もの古こ修しゆ乃なり可か以い願げん支し體たい
病びやう身しん世せ活かつ尼に女にょ也なり肉にく親しん族ぞく
空くう地ち念ねん親しん類るい一いつ家か法はふ一いつ門もん

尚書

卷之六

幸々我母之失志也西遠涉
 瀾心之世也河法母之音等閑
 味を備中伏宵中是法
 氣之毒矣止送慈也先子方
 形也少見之者花柳者其

也静之德也礼也素也上者
 情使礼法生者名也礼也上
 口廣輝義我口及我出深志一履
 也然情苦也散有散也酒酒
 獨酒上之有前也然也月也藥

後善く敬首尾少為清叙
席子受納也獻上進貨
法執其進上頂款不度二
養將少無少同世女極微
足重意以所其甚其其加

行方後至極少苦勞疲勞
越誤少疲弱者越歎少之
復少而勞病氣少大切持
病心痛病氣積風物傷
寒熱住牙加醫制滅活

係博業之上法事久の係
此枝の全枝保書以養生
寺の目増強氣宗宗お懸
本儀加持祈徳以系其誠
系上伺公推承込承慈望

和室の家の内ハ私慈救業
将娘孫養た耶玄孫兄
舟姉妹伯父叔母後守流
替同姓苗裔後替留男如
聳嫁女推系折量皇家入

驚入法慈傷吟く老く法
考近く故と世と我程是身
吏と色純吏純中僧馬
奉納く意外憚緩意よ
辛巳月日致白とた方

奇く言委細且其悲都
其る承知也然勉博及
此名及承閣佳却と出以
痛へと透空く不待寸候
取込強る二音百念出物後也

新徳の引出及後隣残念云
志母の冷方圓付日道志
誘引新春羊頭改曆
○始中慶者古交法吉也
中納中龜不二有畫初際

限は佳例は加例も佳例
着菜上巳く清経念ん瑞
午嘉祥く直夜七夕守元
国出皮八朝重陽山夜例
玄猪歳言口祝入法被慶

乞種之貧食物教者好
物珍貴既疎味幾
種能自慙不若若素
百瑞之教女院始官女
后藤藤中園方内佐也内

室心西雜管子沙弥河
園梨僧正方丈侍者同
宿法印法攝權僧都委
下男下女侍婢或若黨
侍士侍番以者以其外

大勢百姓妻妾云出後者數
縁組納付婚姻云組
役言法惣平産妻産
汚延生者生所嫡子
息女松除月安於母也

乱丈婦孺子以儲運者
肥立法飲隱居由家督
云云送家藏厚及地面
と石積穰波松何率倫
お炊希上彰上石付所

一腰馬二匹所將者二種

一為後考の時の後考の

時永陽後信如斯の也

履甘如中入若恒履言

不悔如首不宣教向ふ

具以上服付糸人へ清

中へる官人へ清中へ

等の事と初か又字の線

中宿所考如如返來

中の事と報ち返る奉

納神社の額の職の縁の中
哀傷の哀の憤の崩の御の汚の
他界の逝の去の死の去の絶の云の殆の
誓の入の月の雪の死の目の足の際の時の
文の其の定の之の武の有のて

之の品のくのもの多の加の先の天の人の藥の
書記のくの平の
消息の住の来の未の終の

名異の月二十

十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	正
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
梅	黄	孟	青	秋	夷	林	梅	孟	姑	仲	孟
月	鐘	冬	秋	涼	初	鐘	月	夏	洗	陽	春
大	霜	夜	索	南	孟	火	畢	仲	曉	如	甫
月	五	鐘	白	呂	秋	老	月	呂	妻	月	月
季	風	小	玄	月	榮	溥	莠	朱	暮	爽	春
冬	雪	春	月	夕	月	暑	定	明	陽	鐘	五

諸穢佳月

夫士農工商者國家之
 至寶日用之物細遠之
 幸源也於中民門之首
 於庶民能守仁義禮智

者哉

信のみ事ごと中以も文武ぶんとぶ治ち國くに以も

忠ちゅう孝こう有あ家け以も系けい國くに以も先せん祖そ

以も忠ちゅう狀じやう傳でん切せつ名な是こゝに武ぶ家け以も

所以ゆゑに尚なほ實じつ也なり勅しやく設せつ在あ列れつ

以も事こと家け老らう用よう人にん傳でん代だい

目め付つけ奉ほう行かう物ぶつ預よ於に軍ぐん

迎むか習じゆ扈こ儀ぎ代だい友ゆう与よ力りき同どう

心しん緒しよ第だい亦また儀ぎ是こゝに禮らい在あ矣なり

中ちゆう間かん等どう迎むか應おう職しやく分ぶん自みづか身み下か

知ち行かう殺ころ持もち方かた切せつ其こゝに本ほん了りやう矣なり

邦一其家可學事
 中一弓馬劍術玄法家
 學書方策算數甘旨息履
 お劬則以言功加信立身
 父祖裔孫一而國公の

死過一弘次者又と春
 耕種府前代考遊田種
 草一秋と前田務扱
 親廣押前本園奉儀持片
 晴力与年貢収納未を

桶龍骨車亦抱老慈之
土地仙神く品宜身く
定農農業もん生民く大
中や一扱亦二函く單
先巧工新初以南考也

水盞以準為規矩杵之標
上撰右日良辰初及神社
堂塔伽藍貝見世后たあ
園くお数字有道有為業者
去穢完形但を底印る生

賈くわい鳥う鴝こ子こ打う扇せん座ざ末ま

廣くわう中ちゆう啓けい前ぜん角かく子こ地ち為ゐ

骨こつ勢せい之の合がひ中ちゆう也や汗あせ

表ひょう方かう所しよ原げん風ふう德とく函げん翠すい

籠かご后ご垂すい簾せん簾せん造ぞう花け為ゐ籠かご

魚いさな刺し珠しゆ教けう授じゆ牽けん纜げん細さい

工くわう七しち室しつにに夫ふ務む有あ見み院ゐん

素そ珊さん珊さん珠しゆ百ひやく八はち檀たん栴ぜん令れい

剛かう樹じゆ延えん生せい本ほん其その花け樹じゆ後ご宗そう

門もん紫むらさき方かう列れつ之の佛ぶつ師し

運交漢度の學の於古作
と須弥の座の若坐入
の重の度の船の以光の燭の以光の由
の宝の彩の色の箔の佛の泥の像の厨の子
の隨の淨の又の彫の刻の一の板の木の在の部

那の夫の大の人の王の之の人の鎮の守の一の竟の念の非
の與の淨の者の所の度の金の佛の禮の耶の也の總
の度の價の結の梅の甘の之の中の度の生の之の毒
の者の寔の口の香の子の同の者の之の終の也の均
の人の能の足の之の次の其の基の所の度の所の子の基

奩象戲掉約水也琴由之
弦胡弓以金銀鍍金
紐系之狗紐練之
復撥樹五色卷之
者漁者不用擔網也

網纏以括字令絲
撥揆掉梳抵子
鏡度尚世風流
是女帝之業也

曰即い友家の外の世法せん

判業也せん警登等せん杜秤ら行ぎ衡せん

縁天せん標びん針しん口こう分ぶん銅どう後ご藤とう

今極いま是これ皆みな指さし孔くわ也なり怪け

重ちゆう一いつ々つ度た之の由よし之の製せい作さく也なり

也なり凡たゞ緒しよ織し人ひと受う領りやう之の友とも

名な中ちゆう賜み願げん名な受う之の其その身み

之の極ごく上じやう暮ぼ云いふ冲ちゆう影えい可か

励れい勤きん志し也なり叔しやく清せい人ひと云いふ以もつ腹はら

真ま整じやう之の為ため右みぎ之の序しよ每まい日にち

夫^{えんぐく}お場^{しやうば}賣^う買^{かひ}經^{いそ}引^ひく^{べー}る^やは
氣^き持^{とんと}同^{とん}屋^やと^ハ統^{トウ}國^{こく}者^{しや}才^{さい}
不^ぶ致^ち疎^そ畧^{りやく}各^{かく}統^{トウ}物^{ぶつ}並^な履^り
る^ら下^げ以^い書^{しよ}存^{ぞん}在^{ざい}中^{ちゆう}買^{がい}
並^な賣^う債^{ちやう}債^{ちやう}お結^{けつ}賣^う入^い摺^{すり}米^{まい}

現^{げん}銀^{ぎん}母^ぼ和^わ連^{れん}一^{いつ}兵^{へい}被^ひ製^{せい}
業^{ぎやう}名^な才^{さい}一^{いつ}大^{だい}看^{かん}板^{ばん}紙^し店^{てん}書^{しよ}
舖^ぽと^ハ神^{しん}と^ハ儒^{じゆ}書^{しよ}佛^{ぶつ}と^ハ軍^{ぐん}
書^{しよ}並^な名^な棟^{とう}名^な一^{いつ}統^{トウ}と^ハ僧^{そう}
俗^{じやく}童^{どう}最^{さい}家^か殿^{てん}女^{にょ}不^ぶ白^{はく}蘭^{らん}

